

第二次審査（論文公開審査）結果の要旨

Cases of retroverted uterus involving placenta previa and low-lying placenta previa are significantly associated with endometriosis

子宮後屈をきたす前置胎盤・低置胎盤症例は子宮内膜症を有意に合併している

日本医科大学女性生殖発達病態学分野
研究生 針金 永佳
J Nippon Med Sch. 2025;92(1).掲載予定

子宮内膜症と前置胎盤・低置胎盤発症との関係についての報告は近年散見されてきたが、子宮内膜症によって発生する腹腔内（子宮後面）癒着との関連については十分に解明されていない。申請者らは、過去に前置胎盤・低置胎盤症例では子宮後面に発生した子宮内膜症の合併が多く、子宮内膜症と関連した子宮後面癒着を有意に伴うリスクが高いことなどを報告してきた。これらの所見は帝王切開手術時の産科危機的出血の発症等に関連することから、子宮後面癒着の術前予測は重要である。以上より申請者らは、妊娠初期の診断が比較的容易である後屈子宮が腹腔内（子宮後面）癒着の予測因子となるのかについて後方視的に検討した。

2015年1月から2022年12月までの間に日本医科大学武蔵小杉病院で前置胎盤・低置胎盤の診断で帝王切開術を行った225例のうち、多胎妊娠および妊娠12週未満での子宮全体像を診療録から得ることができなかった症例を除外した110例（49%）を対象とした。帝王切開時の腹腔内所見に基づいた子宮内膜症による後面癒着合併の有無によって2群に分類し、2群間における妊娠初期の子宮後屈の有無、胎盤の後壁付着の有無について後方視的検討を実施した。

結果として、110例のうち子宮内膜症による後面癒着あり群は32例（29%）、なし群は78例（71%）であった。子宮後屈は、子宮内膜症による後面癒着あり群で15例（46%）、なし群で17例（22%）と子宮後面癒着あり群で有意に多かった（ $p = 0.01$ ）。子宮後屈かつ胎盤後壁付着例は、子宮内膜症による後面癒着あり群で15例（47%）、なし群で16例（21%）と子宮後面癒着あり群で有意に多かった（ $p < 0.01$ ）。

子宮後屈である前置胎盤・低置胎盤は、子宮内膜症による後面癒着の合併率が高いことが示された。よって、子宮後屈である子宮内膜症患者では、胎盤後壁付着の前置胎盤・低置胎盤および子宮後面癒着の可能性が高くなることを念頭においた周産期管理に臨むべきであり、また、このような症例は不妊治療を要することが多いが、可能であれば妊娠前の子宮内膜症の進行抑制、さらには子宮内膜症重症化前の妊娠成立が求められることが推定された。

第二次審査では、子宮内膜症のない後屈子宮の診断意義、子宮内膜症が関連する他の周産期合併症、子宮後面癒着に対する術中の対応、子宮内膜症で胎盤後壁付着となる機序等について質疑があり、いずれも的確に回答した。

本研究は、近年増加傾向にある子宮内膜症合併妊娠の帝王切開時の産科危機的出血リスクを予測するための一助となる可能性があり、本論文は学位論文として価値あるものと認定した。